

# 「20<sup>キ</sup>」に短縮」方向確認

## 中国でICFA会議

### 初期整備、経費削減へ

### 11月表明向け議論加速

世界主要加速器研究所の所長や研究代表者らで構成する国際将来加速器委員会(ICFA)は9日、中国広東省で会議を開き、本県の北上山地(北上高地)が建設候補地とされる国際リニアコライダー(ILC)の初期整備延長を20<sup>キ</sup>に短縮して建設する方向性を確認した。11月にカナダで開く会議でICFAとしての考えを正式表明する予定で、さらに議論を深めていく。



東北誘致

会議に参加した東京大素粒子物理国際研究センターの森俊則教授によると、当初31<sup>キ</sup>を想定していたILCの初期整備延長を20<sup>キ</sup>に短縮し、衝突エネルギーを削減。当面はヒッグス粒子の詳細研究を行う施設として建設する。

ILCは加速器施設建設費(労務費含む)1兆円超、

年間運転費約490億円というコストが課題だったが、延長縮減などで大幅なコスト削減も見込まれることから、会合では「ILCの新たなスタートだ」と好意的に受け止められたという。森教授は「資金を出す方としても前向きに進められるのではないかと感じる」と期待する。

東北ILC準備室長の鈴木厚人県立大学長は「この方向性は最後の切り札。早急に政府間協議を開始するよう関係機関に働き掛けた」と活動を加速させ

国内外の交渉で中心的役割を担い、誘致実現による本県への経済波及効果の調査にも携わる東京大素粒子物理国際研究センターの山下了特任教授も「これから

ILCの日本誘致の可否は文部科学省の有識者会議の検証などを経て、政府が2017年末から18年ごろに判断するとみられている。

が本場の勝負。研究所長らが集まる国際的な場で今後の方向性が決まったことは大きな弾みになる」と歓迎する。

### ニュースフラッシュ

■県市議会議長会が知事囲む会  
県市議会議長会(会長・菊田隆盛岡市議会議長)は10日、盛岡市内で達増知事を囲む懇談会を開いた。国際リニアコライダー(ILC)の誘致実現に向けた取り組みの推進などを達増知事に要望した。

14市の議長が出席。ILC誘致のほか▽県立久慈病院の医師確保▽再生可能エネルギー拡大に向けた送電網強化▽福島第1原発事故による放射性物質汚染対策▽被災移転跡地の土地利用対策▽復旧・復興予算の継続—を要望した。

達増知事は「関係の市と県でさらに情報の共有、意見交換をして取り組んでいきたい。ILCはいよいよ正念場で、積極的に情報発信したい」と述べた。